

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)5月15日号 No.1990

目次

■ 2024年のロシア極東港湾の貨物量	1
■ 統計速報	9
2025年1～3月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／9	
2025年1～3月の日ロ貿易／10	
2024年1～12月のロシアの主要経済指標(更新)／13	
■ トピックス	17
対ウクライナ円借款に関する書簡の署名／17	
DENZAI、ウクライナに子会社を設立／17	
東京センチュリー、ロシアへのリース航空機の保険金を受領／17	
中ロ首脳、緊密な関係を誇示 対米けん制／18	
口越首脳、包括的戦略パートナーシップの深化で一致／18	

2024年のロシア極東港湾の貨物量

はじめに

経済速報2025年3月25日号(No.1986)では、ロシア港湾の取扱貨物量の2024年の実績を紹介した。今回はロシア極東港湾の実績を図表にまとめてお届けする。

概況

昨年1年間のロシア極東港湾(サハ共和国およびチュコト自治管区を除く)の取扱貨物量は、2億3,648万tと、前年と比べ0.7%の減少となった。このうち、ドライカーゴは1億5,455万tと1.6%の減少、液体カーゴは8,194万tと1.0%の増加となった。

鉄鋼、非鉄金属、木材の取扱量が制裁強化や市況悪化の影響から減少したことが響いた。コンテナや液化ガスなどが前年を上回ったものの、減少分をカバーしきれなかった。貨物量の約半分を占める石炭は前年とほぼ同水準を維持した。

アジア太平洋地域との関係強化が進む中、貨物量は、コロナ禍の影響を受けた2020年も、戦争と制裁下という状況の直近2年間も、一貫して増え続けてきた。しかし、2024年は、制裁強化の影響から、わずかながら前年を下回った。それでも、貨物量は2008年の8,041万tから16年間で2.9倍に拡大した。

2024年は、極東港湾が戦争と制裁の影響を避けられないことを改めて痛感する1年となった。積